
笑いにそ命

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑いこそ命

【Nコード】

N0730J

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

M-1を見ていて思いつきました。青臭いネタですが、お許し下さい。

俺は売れない漫才師。相方が最悪だ。

突っ込みなのに噛みまくりだ。

俺がいくら絶妙のボケをかましても、奴が噛んで滑る。

だからどんなコンクールに出ても、大会にエントリーしても、予選敗退。

ネタ合わせの時は完璧なのに、本番で悉くしくじるのは、故意にやっているのではないかと思ってしまうほどだ。

コンビを解消しようかと真剣に考えた事は幾度となくあった。

しかし、代わりの相方がいない。

それで諦めていた。

そんな俺の前に、まさしく天から遣わされたのではないかという相方候補が現れた。

突っ込みの達人だ。

どんなボケでも拾い、完璧に突っ込む。

是非コンビを組みたい。

しかし一つ問題がある。

そいつにも相方がいるのだ。

但し、ボケ切れないボケ役。

そいつの中途半端なボケすら、奴は拾って「モノ」にしていた。

もうこいつ以外考えられなかった。

俺は思い切って、そいつに話しかけた。

「俺とコンビを組まないか？」

俺は心臓が高鳴っていた。断わられるのを覚悟で言ったからだ。

だが、そいつの答えは意外だった。

「もう少し待ってくれ。相方がもうすぐ死ぬんだ」

「えっ？」

俺はギクツとした。ネタか？ 最初はそう思った。

よくよく聞いてみると、奴の相方は、ガンなのだそうだ。

余命一ヶ月。それまでコンビを続けたいと言う。

そんな話を聞いたら、俺は誘えなくなった。

「相方が死ぬのを待って、コンビ組むなんて、あまりにも非常識じゃないか？」

俺はそいつに言った。するとそいつは、

「あのヤロウにはウンザリなんだ。解散したかったんだけど、その矢先にガンになってさ。それを理由に解散したら、俺の評判が悪くなるだろ？ それも将来的にまずいからさ」

と言った。俺は虫酸が走った。

こいつ、相方を何だと思っているんだ？

消耗品だとも思っているのか？

こんな奴とコンビを組んだら、どんな目に遭うかわからない。

俺はそう思って、そいつとのコンビを諦めた。

そして一ヶ月後。

そいつの相方は、話の通り、ガンで死んだ。まだ二十代だった。

葬儀に参列し、相方の遺体に縋^{すが}り付いて泣いている奴の姿を見て、俺は奴が強がりと言っていたのだと気づいた。

俺はふと自分の相方を見た。

そして自分自身を省みた。

俺は奴より酷い奴だ。

相方を切ろうとしていた。自分のために。

だが、奴は最後まで相方を見捨てなかった。

俺は理解した。

まだ俺達は生きている。

生きているなら、先はある。

まだ頑張る余地はあるはずだ。

俺は相方を誘い、ネタ合わせをするため、劇場の稽古場に向かった。

まだだ。まだ終われない。

笑いこそ俺の進む道。

笑いこそ我が人生。

笑いこそ、我が命。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0730j/>

笑いこそ命

2010年10月21日23時53分発行